

兵庫県のアムシ研究史（1）

（兵庫県甲虫相資料・299）

高橋 寿郎

アムシ類（Chrysomelidae - Leaf Beetles）は、甲虫類（Coleoptera）の中でも大きなグループの一つである。すべて食植性で、大部分が害虫としてわれわれの生活にも直接、間接の関係を有する。

日本ならびにその近隣諸国のアムシ類はよく研究されており、その概要もほぼわかっている（木元新作・滝沢春雄、1994）。

兵庫県におけるアムシについて、これまでの多くの方々の研究をもとに、筆者が1994年5月にまとめたところ、278種の記録がある。日本産アムシは16亜科163属590種で、そのうち本州に分布しているのは454種（うち2種は分布に問題あり、木元新作・滝沢春雄、1994）、したがって、本州産の6割くらいが県下に産することがわかっている。

各種についての記録の集積も相当量になっている。このあたりで兵庫県のアムシとしてのまとめを発表する必要があるようで、目下その方法について検討中である。その一環として、兵庫県産アムシの研究史を分割発表させていただきたいと思う。

研究史をまとめるにあたり、次の観点で文献を選んだ。1. 兵庫県産のアムシで記載された論文。2. 兵庫県全般、特定の地域のアムシ相をまとめた論文。

それ以外の県産アムシについての文献類は、筆者が別途まとめて発表している「兵庫県産甲虫類に関する文献目録」（1975, 1981, 1984, 1993. 1830編収録）、「きべりはむしに関する文献目録」（1990）を参照いただきたい。

本文を草するにあたって、多くの方々の御援助、御指導をいただいている。紙面の都合上いちいち芳名を記さないが、厚く御礼申しあげる。

1873. Baly, J.S., Catalogue of Phytophagus Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to Science. Trans. ent. Soc. London, Part I :69-99.

G. Lewis の日本での採集品にもとづくアムシ相の研究で、兵庫県産は9種記録

され、うち6種が新種記載である。これら新種記載種のみ次に記す。

P. 69. *Donacia aeraria* Baly = *Donacia lenzi* Schoenfeldt ネクイハムシ Hiogo

P. 70. *Lema concinnipennis* Baly キバラルリクビボソハムシ Hiogo

P. 74. *Lema dilecta* Baly スゲクビボソハムシ Hiogo

P. 81. *Coptocephala orientalis* Baly ヨツボシアカツツハムシ Hiogo

P. 89. *Cryptocephalus scitulus* Baly カシワツツハムシ Hiogo

P. 94. *Cryptocephalus fortunatus* Baly キアシルリツツハムシ Hiogo

なお、P. 80. *Clythra laeviuscula* Ratzeberg = *Clythra arida* Weise ヨツボシナガツツハムシ Hiogo, a single specimens found on the oak この種は、この報文で日本からの初記録種となる。

1874. Baly, J.S., Catalogue of Phytophagus Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to Science, Part II. Trans. ent. Soc. London, Part I :161-217.

前年度(1873)の報文に続く第2報。多くの日本産新種記載がある。兵庫県産では次のように新種ならびに新記録種がある(命名者名のないものが新種)。

P. 177. *Galleruca*(=*Pyrrhalta*) *annulicornis* ブチヒゲケブカハムシ Hiogo

P. 178. *Galleruca sagittariae* Gll. = *Galerucella nipponensis* (Laboissiere) ジュンサイハムシ Hiogo

P. 179. *Aenidea*(=*Fleutianxia*) *armata* クワハムシ Hiogo

P. 184. *Arthrotus variabilis* = *Anthrotus niger* Motschulsky ムナグロツヤハムシ Hiogo

P. 184. *Arthrotus*(=*Stenaluperus*) *cyanea* ルリウスバハムシ Hiogo

P. 194. *Saeboethe*(=*Hemipyxis*) *flavipennis* キバネマルノミハムシ Hiogo

P. 213. *Cassida vespertina* Boheman コガタカメノコハムシ Hiogo

P. 214. *Coptocycla*(=*Thlaspidia*) *lewisii* ルイスジンガサハムシ Hiogo

P. 215. *Hispa japonica* = *Dactylispa angulosa* (Solsky) ヒメキベリトゲハムシ Hiogo

P. 216. *Hispa*(=*Dactylispa*) *subsquadrata* カタビロトゲハムシ Hiogo

上記2論文は Motschulsky の論文以降初めての日本産ハムシ科の研究で、数多くの新種が記載されている。

兵庫(神戸)産でも14新種が記載され、2種が日本初記録となっている。現在の知見で、学名を変更しなくてはならないものもあるが、兵庫県産ハムシ科研究で初めての論文として貴重なものである。

1875. Harold, E.v., Verzeichniss der von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleopteren. Abhandl. Nat. Ver. Bremen, IV :283-296.

Tuison Lenz は商人として1874~1880年の間神戸に在留した。その間に甲虫類を採集し、その採集品を基にして Harold は 2 編の論文を発表しており、本報はその第 1 報である。

ハムシはアカガネサルハムシ 1 種しか記録されていない。産地は明確に記録されていないが、神戸 (Hiogo) 産と考えられる。

1876. Harold, E.v., Bericht ueber eine Sending Coleopteren aus Hiogo. Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V :115-135.

前記の第 2 報。ハムシはヨモギハムシ、ヒメカミナリハムシの 2 種の記録がある。産地は表題のごとく Hiogo (神戸) 産。

1879. Heyden, L., Die Coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875. Deut. Ent. Zeit., X X III, Heft. II :321-365.

本編は、Dr. Rein の日本での採集品のうち、甲虫類のみを同定した報文である。Dr. Rein は明治 8, 9 年の 2 年間、東京ドイツ大使館の顧問として日本に滞在し、本州、四国、九州の昆虫類を採集した。神戸では 6, 7, 8 月の昆虫最盛期に採集を行い、報じられた 152 種のうち、兵庫県からは 66 種と一番多く記録している。もっとも Lewis などの記録も含んでいる。

ハムシはヨツボシナガツツハムシ、オオサルハムシ、ヨモギハムシ、ヒメカミナリハムシ、クワハムシの 5 種が記録されている。

1885. Jacoby, M., Description of Phytophagous Coleoptera of Japan, obtained by Mr. George Lewis during his Second Journey, from February 1880 to September 1881. Part I. Proc. Zool. Soc. London 1885:190-211. pl.4.

G. Lewis の 1880 年 2 月から 1881 年 9 月までの日本における採集旅行の結果をまとめたもので、多くの日本産ハムシ科の新種記載が含まれている。Hiogo, Kobe 産として次の 2 新種が記載されている。

P. 204. *Demotina bipunctata* Jacoby フタモンアラゲサルハムシ Kobe

P. 209. *Phytodecta robustus* Jacoby = *Goniocтена*(*Sinomela*) *nigroplagiatus* Baly ヤツボシハムシ Hiogo

1885. Jacoby, M., Descriptions of Phytophagous Coleoptera of Japan, obtained by Mr. George Lewis during his Second Journey, from February 1880 to September 1881. Part II . Halticinae and Galeurcinae. Proc. Zool. Soc. London 1885:719-755.

前記の第2報で、ヒゲナガハムシ、トビハムシ亜科のものが扱われており、神戸産で次の3新種の記載がある。

P. 731. *Phyllotreta*(=*Luperomorpha*) *tenebrosa* Jacoby キアシノミハムシ Kobe

P. 724. *Luperus longicornis* Jacoby = *Stenoluperus nipponesis* Laboissiere ヒゲナガウスバハムシ Kobe

P. 750. *Aenidea*(=*Taumacera*) *tibialis* Jacoby クロバヒゲナガハムシ Kobe, Maiyasan

1885. Gorham, H.S., Revision of the Phytophagous Coleoptera of the Japanese Fauna: Subfamily Cassidinae & Hispinae. Proc. Zool. Soc. London 1885:280-286.

G. Lewis の Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago (1879) に記録されているカメノコハムシ、トゲハムシ亜科の再検討をした論文。Lewis の採集で、Baly が Hiogo 産で記載したトゲハムシ、カタビロトゲハムシはそのまま収録されている。

1887. Schoenfeldt, H.v., Catalog der Coleoptern von Japan mit Angabe der bezueglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte. Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturhunde, 40:31-204.

この時代までに日本から記録された甲虫類のリストで、原記載名も一緒に示してある。この目録での新種記載はない。現在では学名の変わっているもの、シノニムで消えるものなどもある。

ハムシ科では Hiogo, Kobe の産地で34種が記録されている。

1888. Schoenfeldt, H.v., Eine neue *Donacia* aus Japan. Ent. Nach. Jahrag. XIV (3):33-34.

Hiogo より *Donacia lenzi* Schoenfeldt ネクイハムシの新種記載。

1888. Schonfeldt, H.v., Catalog der Coleoptern von Japan, Erster Nachtrag. Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturhunde, 41:44-49.

前記リストの追補で、兵庫県からのハムシは前記したネクイハムシ1種しか入っていない。

1901. 大上宇一, 播磨産金花虫科. 動物学雑誌 13(156):323-326.

播磨産ハムシ35種を記録している. 和名だけのもの, あるいは和名と学名のつけられたものがあり, 若干の解説はついているが, 標本が現存していないだけに, これでの確な判断をすることは難しい.

日本人による兵庫県産ハムシの記録として最初のものであるだけに, 貴重であると共に残念でもある.

1902. 大上宇一, 播磨産甲虫類報知. 動物学雑誌 14(167):344-348.

ハムシは9種記録されている. 和名のみで学名はない(2種属名のみ記されている).

1907. 大上宇一, 播磨産甲虫類(承前). 昆虫世界 11(118):244-245.

播磨産ハムシとして32種記録されている. 今回は学名がついているので, ほぼ種の判定はできる(中に属名のみのもものが2種ある). 和名と学名の羅列であり, 産出状況とか採集データなどが全くない報文である.

1916. Fleischer, Neue Chrysomeliden aus Japan. Wiener Ent. Zeit. Jahrg. XXV, Heft. 5/6:222-223.

Harima産ハムシ3新種の記載がある. いずれも現在はシノニムで学名が変わっている.

P. 222. *Crepidodera*(*Crepidomorpha*) *carinulata* Fleischer = *Liprus punctatostriatus* (Motschulsky)
ナガトビハムシ Harima

P. 223. *Luperus*(*Calomicrus*) *japonica* Fleischer = *Calomicrus cyaneus* (Jacoby) ハラグロヒメ
ハムシ Harima

1929. Roubal, J., Coleoptera nova asiatica.. Bull. Soc. Ent. Italiana 61(5/6):96-98.

P. 97. Kobe, *Dioryctus oglobini* Roubal なる新種記載である. 本種は現在 *Adiscus lewisii* Baly タマツツハムシのシノニムとして扱われている.

1932. Kuwayama, S., Studies on the Morphology and Ecology of the Rice Leaf-Beetle, *Lema oryzae* Kuwayama, with species reference to the taxonomic aspects. Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 33(1):1-132.

次の兵庫県下からの記録が含まれている。

- P. 69. *Lema concinnipennis* Baly キバラルリクビボソハムシ Hyogo, Prov. Settsu (after J. S. Baly)
P. 70. *Lema dilecta* Baly スゲクビボソハムシ Hyogo, Prov. Settsu (after J. S. Baly)
P. 73. *Lema honorata* Baly ヤマイモハムシ Takasago, Prov. Settsu (July leg. S. Matsumura)
P. 79. *Lema decempunctata* Gebber トホシクビボソハムシ Hyogo, Prov. Settsu (April, 14, 1914. S. Hirayama leg.)

1932. 桑山覚, 稲泥負虫に関する研究 第二報 稲泥負虫の分布. 北海道農事試験場報告 No. 29:73-96.

当時の日本における *Oulema oryzae* (Kuwayama) イネクビボソハムシ (本論文では *Lema* 属) の分布を述べたもので, 台湾, 朝鮮の分布にも言及している。

兵庫県下での分布は, 但馬地方のみ知られているとなっている。現在でも県の中央部あたりから北に分布しているように思われる。

1933. 関公一, 御影町附近産の甲虫目録 (其の三). 昆虫界 1(5):491-494.

大上宇一氏の播磨産甲虫目録以降, 久しぶりに現れた県下産甲虫目録である。御影町即ち神戸市東部を中心に, 摩耶山・六甲山を含めた甲虫目録で, 詳しい産地や採集データはないが新記録種も多く, 比較的同定し易いものが多いので, その同定もあまり間違いはないように思う。

ハムシは29種記録されている。普通にみられるものが大部分であるが, なんといってもキベリハムシの記録されていることは特筆もので, 本種が日本 (本州) で発見され, 文献上に公表された第一号になるのではと考えられる。ただ残念なことに, 採集場所や月日など全くなく, もちろんコメントもついていない記録となっている。

1933. 人見一馬, 質疑. 昆虫界 1(6):656.

六甲山中腹にて8月6日, キベリハムシ採集についての質問である。これに対して加藤正世博士も, 同年那須範子氏の標本 (神戸産) をもらった記録。台湾産と異ならない旨記している。同時に湯浅啓温博士の本種 (キベリハムシ) についての解説も出ているが, 同博士は台湾からは未記録ではなかったのかと書いている。

1934. 生田豊一, キベリハムシの産地. 昆虫界 2(7):118.

神戸篠原での記録(20.VIII.1933). 同時に加藤正世博士により, 江崎悌三博士が中学時代(大正2年頃-1913)既に本種が大阪付近に産し, その標本をもっているという記録がある.

1934. 足立輝一, 生徒採集昆虫調査報告. 少年昆虫界 1(2):32(昆虫界 Vol.2, No.8に含まれる).

神戸一中の夏期宿題の採集品を調べた結果をまとめたものである. 注目すべき種についての解説はついているが, データ等は全くない. 産地も恐らく兵庫県下, 神戸市中心だろうと思うが詳しくはわからない.

ハムシ科は5種で非常に少ない. キベリハムシは数頭採集されていたとあるが, 採集地の記入がない. 六甲山系だと考えられる.

1934. Chujo, M., Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire (VII). Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 24(135):518-537.

P. 528. *Donacia provostii* Fairmaire イネネクイハムシを G. Lewis が Hyogo (7. VI .1881) から採集した記録がある.

1937. 平山修次郎, 原色千種續昆虫圖譜. (三省堂, 東京)

pl. 74, f. 2に兵庫県六甲山産キベリハムシ(V・VIII, 1936)の図説あり.

1937. 横山光夫, 環境とFamily 昆虫の大阪(そのI). 昆虫界 5(45):797-809.

神戸を中心とした産地について若干説明がある. 特に, 六甲山でキベリハムシを一人で二百数十頭採集したとある.

1938. 田中光照, きべりはむし. 兵庫県中等教育博物学雑誌 I :57-58.

神戸市夢野大師登り口旭ヶ丘および鳥原産の本種を飼育した結果をまとめて発表したもので, 本種の形態, 生態についての報文として初めてのものである. 紙面の都合で, 飼育状況などが割愛されているのは残念である.

1938. 松本賢吉, キベリハムシに関する知見. 日本の甲虫 2(2):65-67.

六甲山麓高座瀧付近より鶴越にいたる, 六甲山脈南側に分布することを述べる

と共に、本種の形態、生態を図入りで記述した報文。

1938. 鎗木渡, キベリハムシ. 昆虫界 6(58):885-888.

六甲山(1930), 芦屋高座付近, 烏原貯水池(1935)などに産することを記録。
同時に本種の生態, 形態を記述した報文。

1939. 高橋寿郎, 神戸産甲虫雑記(1). 兵庫県博物学会々誌(18):51-53.

キベリハムシの産出状況の記あり。

1939. 高橋寿郎, キベリハムシの新産地報告. 昆虫世界 43(508):374-375.

神戸市板宿, 多井畑での産の報告。

1939. Gressitt, J.L., East Asian Hispinae and Cassidinae in the collection of the California Academy of Science. Pan-Pacific Ent. 15(3):132-143.

表題のごとく, サンフランシスコにある California Academy of Science に保管されている東アジア地域で採集されたトゲハムシ・カメノコハムシ科についてまとめたもので, 新種記載も入っているが, 日本産ではない。

次のように兵庫県産標本が2種ある。

P.142. *Cassida*(*Cassida*) *lineola* Creutzen, 1799 クロスジカメノコハムシ one at Harada, kobe, Japan. June 13, 1911, J. E. A. Lewis leg.

P.143. *Cassida*(*Cassida*) *piperata* Hope, 1842 ヒメカメノコハムシ one was taken at Kobe, Japan, in February, 1909, J. C. Thomson.

1939. 田中靖也, 昆虫採集, 宝庫之鍵. Natura (9):1-27.

神戸付近, 主として烏原貯水池周辺の採集地での産出種を解説。キベリハムシを含むハムシ類の記録がある。

1940. 高橋寿郎, キベリハムシに就いて. 昆虫界 8(72):104-112.

烏原貯水池付近産を中心に形態, 生態について報告した。

1941. 高橋寿郎, 烏原附近産ハムシ科に就いて(1). 昆虫界 9(88):399-401.

第1回として13種のハムシを記録したが, 珍しいものはない。採集データを示

していない。

1941. 増田猛・橋本直也，一中附近の昆虫．A5．39p．（孔版，単行本）．

神戸一中（現神戸高校）付近産の蝶と甲虫の目録である．甲虫の担当が上記の2氏である．同定の誤りもあるようだし，現在の知見から相当数の学名の変更などもある．ハムシ科は65種とわりと多く，注目種も含まれている．キベリハムシの記録もある．各種にデータはついていないが，コメントはついている．

1943. 高橋寿郎・萬濃誠三，神戸産金花虫科（1－3）．昆虫世界 47(554-556):233-235, 249-251, 270-271.

1944. 高橋寿郎・萬濃誠三，神戸産金花虫科（4－7）．昆虫世界 48(557-560):8-9, 28-30, 49-50, 69-70.

神戸市烏原貯水池畔で採集したハムシ類のまとめで，各種についての若干の説明はしてあるものの，採集データはついていない．

以上で，いちおう戦前の研究史は終わる．